

地域住民の皆さまへ

平成 20 年 2 月 15 日

金沢大学学際科学実験センター

アイソトープ理工系研究施設長

この度は、地域の皆様に不安を与えるような事態を起こし誠に申し訳ありませんでした。去る平成 20 年 2 月 12 日（火）午前 9 時ごろ、金沢大学学際科学実験センターアイソトープ理工系研究施設において排水設備（貯留槽）からの漏水が発見されました。この排水は通常、放射能を測定して排水基準を満たしていることを確認したのちに、一般排水（通常の下水道）に放流しております。ところが漏水のため、放射能濃度を測定する前に 20 m<sup>3</sup>程度、発見されるまでの 4 日ほどの間に下水道に排水されたことが判明いたしました。

すぐに貯留槽に残っていた排水の放射能測定を開始し、結果としては下水道に排水できるものであると判明しております。同日に文部科学省から発表がありましたとおり、「核燃料物質については現在詳細分析中ですが、同研究施設で使用されていた核燃料物質全量が 20 m<sup>3</sup>の排水中に移行した場合でも環境への排出基準を下回ることから、本事象による人や環境への影響はない」と考えられます。また直接原因となった腐蝕部品は当日午後に変更修理いたしました。このような経緯で結局大事には至りませんでした。可能性としては基準を超えた核燃料施設の排水を放流する危険性があったことになり、地域の皆さまをはじめ社会の皆さまにご心配をおかけしたことにつきまして、心からお詫びを申し上げます。

当施設は金沢大学の放射線・放射能にかかわる実験研究および学生教育を目的とした施設で、昭和 28 年に旧施設ができてから現在まで約 55 年間、安全確保に努め、事故・不祥事は 1 度も起こしたことはありませんでした。また学内においては、放射線安全教育を毎年実施し、大学職員・学生の放射線取り扱いの安全意識を高め、社会・地域に対しては子供たちの理科教育や、昨年発生した能登地震によって懸念された地中からの放射能の測定に協力し、日頃より市民の皆様への貢献に努めてまいりました。それにもかかわらず、当施設におきまして今回このような事故が発生したことは重大なものと受け止め、管理が不十分であったことを深く反省しております。

今後は二度とこのような事故を起こさないという決意のもと、当施設のみならず、金沢大学全学をあげて、原因を徹底的に究明し、設備の改善や管理体制の見直し、学外者による検査を含む抜本的な再発防止策を策定してまいりますので、ご理解いただき、ご寛恕いただきますようお願いいたします。